

コラム



2010-10発行 明照幼稚園

こんにちは。園長の佐藤良文（さとうりょうぶん）です。本年第2号のコラムになりました。今回も、たんぽぽぐみ・未就園児のお母様方に向けて、自分が経験してきた事や考えた事をお伝えしようと思います。

さて、今回取り上げるのは「ベビーカー」です。私の長女が生まれた10年前と比べ、ベビーカー事情はすっかり変わったと感じます。当時はA社かC社のものがほとんどで、「軽くてコンパクトに畳めるのが大事」でした。それが、ここ数年はM社の製品の比率がぐーんと上がり、半数以上の方がこのメーカーの物を使っているのではないかと思います。

「子どもが生まれたらベビーカー」。漠然とそういうイメージを持っていました。ですから我が家で最初のベビーカーを購入したのは10年前。3人兄弟で、レンタルも含め合計6台のベビーカーを使ってきました。

ですから、**2歳児さんに「今すぐやめてください」ということはありません。**しかし、オムツもそうなのですが、親の都合で乗ってもらっているの、オムツ同様に**親の責任として降ろしてあげなければいけない**と思います。

子どもは歩くのが上手ではありません。そこに最大のベビーカー需要があると思います。多くの子は1歳のお誕生日頃に歩き始め、そしてすぐ走ったり階段を上ろうとしたり、「わざわざ？」と思うばかりにいるんな路面を歩こうとします。見ている方はたまらなく心配なのですが、子どもの表情を改めて見ると、満面の笑み。朝、兄弟と一緒に登園してきて、園庭で暫く待っている時、大抵の子は歩くのを楽しんでいます。そう、歩くこと自体が楽しいのです。

人間の歩き方は、①2本足でバランスをとり、立っている状態から②身体を傾けたりして一旦バランスを崩し③それをフォローする形で足を出し④体重移動してまたバランスをとっていく…のくり返しです。かなり高度な技です。転ばないだけでなく、方向を変えたり段差を超えたり速度を速めたりと、言葉で全部を説明したら、相当長文になることを、一瞬でこなしています。これはもちろん、経験の多さによって獲得されるものです。**身体が軽く小さいうちに、沢山転んで上達していくのは、まさに進化の過程で手に入れた智恵だ**と思います。

さあ、子どもは歩くのが上手ではない。それはしかし、ベビーカー登場の一つの理由でしかありません。「**その状態だけれど、大人に付き合っ**

てばならない」から、ベビーカーが登場するのです。「大人の都合」とはそういうことです。



色々様子を見たり、お話を伺うと、M社のベビーカーがなぜ人気があるのか解りました。まず、押し手が従来より高く、背筋を伸ばして押せる（疲れにくい）こと。丈夫でしっかりしていること。ブランドとしてのストーリーがあること。等々…

しかし、気になる点もあります。「4歳までは乗せてあげましょう。子どもは体力がないので」というアピールをしている事です。これは、「**大人に付き合うには十分な体力がない**」意味であることは見逃してはいけません。そして、ベビーカーに乗っている時間は体を使わない分、体力が伸びる訳ではないのです。

ベビーカーがあれば、多少の荷物も運べるし、寝てしまっても大丈夫だし、ちよろちよろしないから、ある意味安全です。しかし一方で、子どもの成長という視点からは、ほとんど得点がありません。親との距離も遠い。低いから日光の反射熱も大きい。親のぬくもりも感じられない。体力もつかない。自分で判断して歩いていないから、注意力も育たない。何事もそうでしょうけれど、**ベビーカーもまた、功罪併せ持つもの**と考えるべきではないでしょうか。

大きく分ければ、兄弟・家庭環境や親の都合と、子どもの経験と成長という視点。どちらか一方からのみ見る、という必要はありませんが、トータルとして大人がコントロールすべき事でありましょう。

今回のまとめです。

1. ベビーカーは とても便利な物である。でも功罪ともにある。
2. 沢山の経験や試行錯誤がなければ、何事かが上達することはない。
3. 大人の都合で乗ってもらっている事を、親の側が自覚する。
4. 親が決断しないと、「卒業」にはなかなか到らない。

ブログ書いています！

幼稚園での様々な行事や子ども達の様子、そして園長が日々考えていることを、リアルタイムで綴ります。携帯電話からどうぞ。



明照幼稚園 URL <http://www.meisho.ac.jp>